

【音楽】

～ClassPad.net のリンクふせん・同時編集機能を活用する～

総合芸術としてのオペラの魅力を学ぶ授業

オペラの鑑賞を通して、音楽の多面的な感情表現と、総合芸術の魅力を学ぶ。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：オペラの鑑賞を通して、音楽が感情や人物、物語を表現する手段であることを理解させる。また、オペラが「総合芸術」と呼ばれる理由を実感させる。

生徒向けの目標：音楽による感情表現を味わう。また、音楽・演劇・美術・技術が一体となってオペラの舞台が作り上げられていることを知り、「総合芸術」であることを理解する。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・授業準備の時短／効率化：事前にリンクふせんを用意することで、授業内で扱う楽曲をすぐに生徒に聴かせることができる。
- ・協働学習促進：ふせんの同時編集機能を利用することで、手軽に協働学習に取り組んでもらうことができる。
- ・個別最適学習の促進：授業内で扱えなかった楽曲についても、リンクふせんを共有することで生徒が自宅で鑑賞することができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

<今日の授業>

♪オペラについて理解を深めよう！

♪"オペラ"という芸術に対して持っているイメージは？

概要の説明

「オペラ」と聞いてどのようなイメージを持つか、どのようなものを想像するか問いかけながら、オペラについて深く学ぶことを伝える。

step2

<オペラとミュージカルの違い>

【オペラ】

歌唱：マイク無し
器楽と歌唱、演劇によって構成されている。器楽はクラシック音楽を基盤として伝統的なもの。
歌唱にはレチタティーヴォ・アリア・二重唱・合唱など、様々な形態がある。

<オペラとミュージカルの違い>

【ミュージカル】

歌唱：マイク有り
歌唱、演劇、ダンスなどの要素から構成されている。様々なジャンルの音楽が使用され、あらかじめ収録されたものを流す場合がほとんどである。オペレッタから派生したもので、娯楽性が高い。
※オペレッタ...オペラを親しみやすくしたもの。直訳すると"小さなオペラ"。

歌劇についての説明

オペラよりも身近なミュージカルを比較対象として例に挙げ、違いを説明する。その際、オペラとミュージカルでは歌唱法が異なることにも触れる。その後、実際にオペラとミュージカルの映像を見比べさせ、違いを実感してもらう

オペラとミュージカルの違いをまとめたテキストふせんを用いて説明する。その後、以下の YouTube 動画の URL を貼り付けたリンクふせんから、生徒に動画を視聴してもらう。

- ・「新国立劇場オペラ「ラ・ボエーム」ダイジェスト映像」
(<https://youtu.be/jV0aUPAUxfc>)
- ・「劇団四季：ウィキッド：大阪公演プロモーション VTR」
(https://youtu.be/14ciX6D_OaU)

step3

<オペラにおける歌唱形態>

【**レチタティーヴォ**】
シンプルな伴奏で、話すように歌う。
劇中では、レチタティーヴォで会話が進んでいく。

<オペラにおける歌唱形態>

【**アリア**】
オーケストラの伴奏で、登場人物が独唱する。
物語の中で重要な場面や心情を表現する役割を持つ。

構成要素の説明①

オペラを構成する歌唱面の要素のうち、レチタティーヴォとアリアの解説をし、実際にそれぞれの演奏を聴かせ、違いを感じてもらう。

レチタティーヴォとアリアの違いをまとめたテキストふせんを用いて説明する。その後、以下の YouTube 動画の URL を貼り付けたリンクふせんから、生徒に動画を視聴してもらう。

- ・「Donizetti - Una parola, o Adina...Chiedi all'aura lusinghiera (L'elisir d'amore)」の冒頭～1 分 30 秒あたりまで。
(<https://youtu.be/kOfFB9YAWPc>)
- ・「MET ライブビューイング 2017-18 《愛の妙薬》リハーサル映像〈人知れぬ涙〉」
(<https://youtu.be/rMdykUmnLWQ>)

step4

<オペラの最大の特徴>

♪ オペラは“総合芸術”である。
最初に述べたとおり、音楽と歌唱と演劇によって構成されている。

【オペラの舞台に関わる人々】
オペラ歌手（ソリスト・合唱）、オーケストラ、指揮者・演出家、舞台監督、大道具・小道具、照明、衣裳、字幕……
→大規模な公演では数百人もの人々が関わる場合もあります！

構成要素の説明②

オペラが総合芸術であることを知ってもらうために、オペラに関わる多くの人々やその役割について解説する。

テキストふせんを使用してオペラに関わる人々をまとめておき、提示する。

step5

<鑑賞>

これから、オペラの中でも大変有名な作品の一つである「ラ・ボエーム」を鑑賞します。

【鑑賞する際のポイント】
・歌手の感情表現
・オーケストラによる音色やリズムの役割
・音楽はストーリーをどのように表現しているか
・歌詞と音楽の関係性

楽曲鑑賞

『ラ・ボエーム』よりアリア「私はミミと呼ばれています」を題材として取り上げ、鑑賞させる。その際、鑑賞のポイントをいくつか提示し、注目すべき点を事前に明確にしておく。

テキストふせんを使用して鑑賞のポイントを提示する。その後、YouTube 動画「ブッチェニ：ラ・ボエーム（カラヤン, 1965 年）【全曲・日本語字幕】」の URL
(<https://youtu.be/PNQVRzCKDFs>)
を貼り付けたリンクふせんから、全員で動画を視聴する（24 分 20 秒～29 分 30 秒まで）。

step6

<グループワーク>

- ・4～5 人程度のグループに分かれます。
- ・先ほどの鑑賞で気づいたことをグループ内で話し合います。
- ・話し合ったことをワークシートにまとめましょう。

グループワーク

クラスを 4～5 名程度のグループに分ける。そして、step5 の鑑賞で気づいたことをグループ内で話し合わせ、ワークシートにまとめてもらう。

テキストふせんをワークシートとして、各グループの代表者に授業支援機能で配布する。グループのメンバーには、代表となった生徒のデジタルノートに参加させ、同時編集機能を用いてワークシートを完成させてもらう。

step7

<発表>

- ・グループごとに、先ほどのグループワークにおける考察結果を発表してもらいます。
- ・各グループの代表者は、自分の端末を持って前に出て、電子黒板につないでワークシートを見せながら発表しましょう。

発表

各グループ 1 分程度で手短かに発表してもらい、グループワークでまとめたものを全体に共有させる。

各グループの代表となった生徒には、端末を電子黒板やプロジェクターにつないでもらい、前に出て step6 で作成したワークシートを投影しながら発表してもらう。

step8

<まとめ>

♪ オペラの魅力
総合芸術としての魅力
歌手の歌声の魅力
物語の魅力
舞台美術の魅力……
↓
これらによって非日常的な体験が可能になる！

まとめ

発表で出た考えに、補足すべき内容があれば付け加え、総合芸術としてのオペラの魅力を改めて伝えて授業を締めくく

step8

オペラが“総合芸術”であることをより強く実感するため、オペラが上演されるまでの舞台裏に密着した動画を視聴してみましょう！

【出典】
新国立劇場 New National Theatre Tokyo
新国立劇場 オペラができるまで～『ウィリアム・テル』の軌跡～



参考・補足

オペラが総合芸術であるということをより強く実感させるため、オペラが上演されるまでの舞台裏に密着した動画を紹介する。

YouTube 動画「新国立劇場 オペラができるまで～『ウィリアム・テル』の軌跡～」の URL

(<https://youtu.be/CVNPze2PmtQ>) の URL を貼り付けたリンクふせんを用意しておき、授業支援機能で生徒に配布して、視聴を促す。